

平成 22 年 4 月 15 日

各 位

会 社 名 セガサミーホールディングス株式会社  
代表者名 代表取締役会長兼社長  
里 見 治  
(コード番号 6460 東証第一部)  
問合せ先 グループ代表室長兼グループコミュニケーション室長  
上 田 晃 一 郎  
(電話番号 03-6215-9955)

## 業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、平成 21 年 5 月 13 日に公表いたしました平成 22 年 3 月期の通期連結業績予想を下記の通り修正いたしましたのでお知らせいたします。

## 記

## 平成 22 年 3 月期通期連結業績予想数値の修正（平成 21 年 4 月 1 日～平成 22 年 3 月 31 日）

（単位：百万円）	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	一株当たり 当期純利益
前回発表予想(A)	420,000	27,000	26,000	15,000	59 円 54 銭
今回発表予想(B)	380,000	35,000	34,500	18,000	71 円 45 銭
増減額(B-A)	△40,000	8,000	8,500	3,000	—
増減率	△9.5%	29.6%	32.7%	20.0%	—
(ご参考)前期実績 (平成 21 年 3 月期)	429,194	8,363	6,636	△22,882	△90 円 83 銭

## 《修正の理由》

遊技機事業において複数の主力機種の販売を次期に延期したこと等により、パチスロ遊技機の年間販売台数は 16 万台（期初計画 18 万台）、パチンコ遊技機の年間販売台数は 35 万台（期初計画 45 万台）となる見込みです。コンシューマ事業においては、海外市場における販売が軟調に推移したことから、ゲームソフトの年間販売本数は 2,630 万本（期初計画 2,970 万本）となる見込みです。以上の結果、通期連結売上高は前回公表値と比較して 400 億円減少し、3,800 億円となる見込みです。

北米において、ゲームソフト販売に加えてアミューズメント施設運営についても不振であったことを主因として、コンシューマ事業とアミューズメント施設事業は利益計画を下回るもの、遊技機事業ならびにアミューズメント機器事業における利益率が改善することによって、利益面では前回公表値を上回る見込みです。

遊技機事業においては、利益率の高いサミーブランドのパチスロ遊技機の販売ならびにパチンコ遊技機の盤面販売比率の上昇、部材調達コストの削減、広告宣伝費の圧縮、価格戦略の見直し等によって利益率の改善が進んでいます。アミューズメント機器事業においては、レビューシェアモデルにて販売したタイトルの高稼働を受けて配分収益が計画を上回り、また主力タイトルの CVT キット販売が好調に推移したことから、利益率が改善しています。以上の結果、営業利益は前回公表値と比較して 80 億円の増加となる 350 億円、経常利益は前回公表値と比較して 85 億円の増加となる 345 億円、当期純利益は前回公表値と比較して 30 億円の増加となる 180 億円となる見込みです。なお、平成 22 年 3 月末期の配当予想に修正はございません。

なお、本日、別途開示している「当社子会社（株式会社セガトイズ）における元従業員による不正取引に関するお知らせ」にてご報告させていただいているとおり、株式会社セガトイズの元従業員が複数の取引先と不正な取引を行っていたことが判明いたしました。セガトイズの『元従業員による不正取引対策本部』（対策本部長：セガトイズ代表取締役社長 鈴木義治）は現時点で不正取引による未認識の買掛金債務を約5億円と推定しておりますが、当社連結業績への影響は調査中であることから、上記連結業績予想の修正には織り込んでおりません。影響額が判明次第、速やかにご報告させていただきます。

以上

※ 本資料内に記載した業績予想につきましては、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後様々な要因により予想数値と異なる結果となる可能性があります。